令和５年度
旭川市農業センター
試験成績（概要）

ナスの養液栽培における品種特性調査

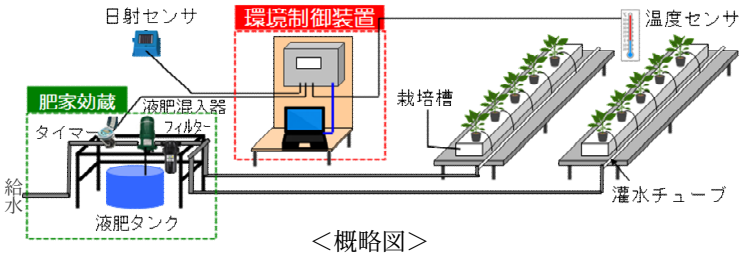
背景・目的

市内農協では，水稲育苗ハウスの有効利用方法として，ナスの養液栽培を検討していますが，市内での栽培実績が少ないことから，当該栽培法に適した品種の検討を行うとともに，省力化が可能な環境制御装置を使用した栽培方法について検討しました。

結果

栽培条件

- 作型：ハウス夏秋どり（定植 6/8，収穫期間 7/3～10/27）
- 栽植密度：床幅 90cm，1 条植え，株間 30cm，185 株/a
- 仕立て方法：主枝 2 本仕立て，側枝 1 芽切り戻し
- 環境制御装置による給液管理（日射比例方式）
- 給液システム：「肥家効蔵」（㈱サンホープ）
- 栽培槽：ヤシガラ培地 「ココバック」（トヨタネ㈱）



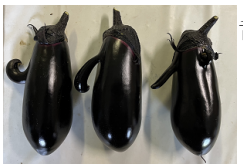
＜概略図＞

省力化が期待される **単為結果性品種** 4 品種を供試	Good! ＰＣ筑陽	Good! ＰＣ鶴丸	あのみのり	あのみのり２号
果形	長なす型	長卵型	長卵型	長卵型
収量性（良果収量）	◎（1,028 kg/a）	◎（1,031 kg/a）	○（901 kg/a）	○（909 kg/a）
作業性	○ 果実にトゲなし	○ 果実にトゲなし	△ 果実にトゲあり	△ 果実にトゲあり
障害	○ 葉に黄化症状が出る場合あり	○ 舌出し果が若干発生する	△ 高温期の花落ち，曲がり	△ 高温期の花落ち
病虫害	○ アザミウマ類の食害がやや多い	○ アザミウマ類の食害がやや多い	◎ アザミウマ類の食害が少ない	◎ アザミウマ類の食害が少ない

＜各生育ステージにおける給液データ＞

生育ステージ	定植～	生育初期～	収穫始め～	収穫盛期～	収穫後期～	収穫後期～終了
積算日射量※（MJ/m²）	2.0	1.5	1.5	1.0	1.0	1.2
日給液量（ml/株/日）	800	1,600	2,000	3,000	2,000	1,000
給液回数（回/日）	10	12	11	14	11	7
給液時間※（分/回）	2.5	4.0	5.0	6.0	5.5	4.5
液肥原液混入率※(%)	0.5	0.5～1.0	1.0	1.15	1.15	1.15
給液窒素量（mg/株/日）	50	150	250	400	300	160

※システム設定値


舌出し果

障害果

アザミウマ類の食害果

ポイント

◆単為結果性品種を使用することで**省力化**が可能になります。
◆当地での養液栽培は，‘**ＰＣ筑陽**’と‘**ＰＣ鶴丸**’が適しています。
◆気象条件や株の生育状況に応じた給液管理が必要ですが，環境制御装置による省力化が可能です。（左表参照）

結果の活かし方

- 水稲育苗ハウスや土壌病害のリスクが高いハウスでは，養液栽培が適しています。
- 品種の選定は，果形や果重等の出荷先の規格又は要望に合った品種を選びましょう。